

1 「百獣の王」は絶滅危惧種

ライオンといえば「百獣の王」。自然界に君臨する動物の王者である。ライオンはアフリカ中部の熱帯草原のサバナに生息し、食物連鎖の頂点に立つ最強の動物である。

最強ということは、ライオンには天敵がいないはずである。しかし、そのライオンが絶滅を危惧されている。なぜそのようなことになるのか？

主な原因は、多くのライオンが人間に殺されてしまったからなのだ。アフリカに住む人々が、人間を襲う危険な猛獣としてやむを得ず殺したこともあるが、目的が毛皮だったり、猛獣狩りを楽しむためのハンティングだったりということも多かった。様々な理由で人間は「百獣の王」を殺害してきた。ライオンの天敵は、実は人間だったのである。

さらに近年は、アフリカの爆発的な人口増加に伴って農地も拡大し、ライオンの住むところが減少している。殺害とすみかの減少によって、ライオンの数は減り、ついに絶滅が危惧される動物となったのである。

ライオンの絶滅を防ごうと、ケニアなどではライオン保護の国家プロジェクトが進められているが、資金不足で国立公園が荒廃するなど、うまくいかないことも多い。

世界の至るところに人間の開発の手が伸びた現在、「百獣の王」もピンチに追い込まれている。



①ライオン（オス） 威厳のある風貌で「百獣の王」と称されるライオンも、人間による乱獲や、農地・住宅地の拡大による草原や森林の減少などで頭数を減らし、絶滅危惧種（絶滅危惧Ⅱ類-VU）に指定されている。

2 レッドリストとレッドデータブック

絶滅危惧種とは、このままでは完全に滅びてしまうおそれのある野生生物の種のことであるが、いったい何を基準にして絶滅危惧種とされるのだろうか？

●レッドリスト

レッドリストとレッドデータブックという資料があり、一般的には、これを基準にして絶滅危惧種が認定される。レッドリストは絶滅のおそれのある野生生物の一覧（リスト）であり、レッドデータブックはレッドリストを基に、さらに詳しいデータを加えて出版される書物のことである。

世界的には国際自然保護連合（IUCN）が、日本国内では環境省がレッドリストを発表したり、レッドデータブックを出版したりしている。他国でも、それぞれ国内の環境省に相当する機関が国内版の発表・出版を行っている。日本国内でも、環境省のほかに都道府県などの自治体や学術団体が、対象となる地域や研究している生物に限定したデータおよび書物を発表・出版することがある。

もともとは、1966年にIUCNがレッドリストを発表し、危険にさらされている野生生物を「絶滅（Extinct）」、「絶滅危惧（Endangered）」、「危急（Vulnerable）」、「希少（Rare）」の四つのカテゴリーに分類したことに始まる。

その後、1994年、および2001年に、カテゴリーの分類方法や認定の基準が大幅に変更され、1966年の四つのカテゴリーから、より細分化されたカテゴリーとなった（次ページ図参照）。

●1万8千種以上が絶滅のおそれ

1994年や2001年の新しいカテゴリーに沿って、1996年および2006年にIUCNから新たなレッドリストが発表された。2006年のレッドリストによると、調査対象となった野生生物（動物、植物）40168種のうち、「絶滅」が784種、「野生絶滅（家畜や栽培植物としては存在するが、野生では絶滅してしまったもの）」が65種、「絶滅危惧種」は16118種にのぼった。これは調査対象のうち、4

割に及ぶ種が絶滅のおそれがある「絶滅危惧種」になっていることを意味する。

さらに「絶滅危惧種」については、毎年更新されていて、2015年のレッドリストでは22784種に増加している。

一方、日本の環境省によるレッドリストは、IUCNのレッドリストのカテゴリーに準ずるものであるが、日本の状況に合わせてアレンジがなされている。

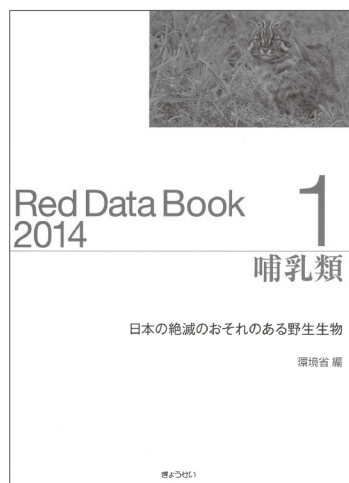
●レッドデータブック

前述のように、レッドデータブックはレッドリストに、より詳細なデータを加えて書物としたものである。詳細なデータとは、その生物の繁殖や食べ物の状況、生育している環境状態、保護対策などである。

しかし、書物として出版するまでにかなりの時間がかかる。例えば、日本におけるレッドリストの発表からレッドデータブックの出版までの時間差は、最も短かった「爬虫類・両生類」で2年半（1997年8月、レッドリスト発表。2000年2月、レッドデータブック出版）かかり、最も長かった「昆虫類」では6年4か月（2000年4月、レッド

リスト発表。2006年8月、レッドデータブック出版）に及んでいる。

これほどの時間差があると、せっかく調査した野生生物の生育状況も変化してしまうことが多い。地球の環境破壊はたいへんなスピードで進んでいて、レッドデータブックが出版される頃には、すでにデータが古くなっているという問題がある。

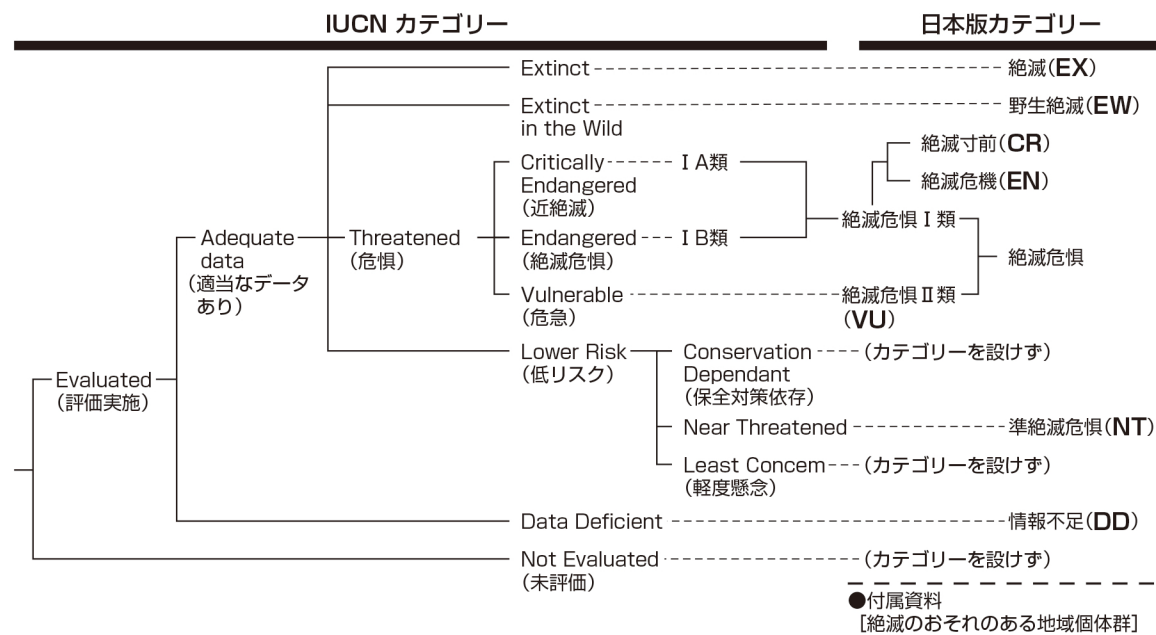


④レッドデータブック表紙（環境省 編 2014年「哺乳類」 ぎょうせい）

3 絶滅の危機に瀕している動植物

●哺乳類は5種に1種が絶滅の危機

哺乳類は母親の乳を飲んで育つ生物で、人間もこれに属している。「百獣の王」ライオンも哺乳



④国際自然保護連合（IUCN）によるレッドリストのカテゴリーと、日本の環境省によるレッドリストのカテゴリー 環境省による日本版のカテゴリーには、「保全対策依存」「軽度懸念」「未評価」のカテゴリーはない（レッドデータブック2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—1「哺乳類」より）。